

「声」

いつからだろう あなたの声が優しく響くのは
いつもと変わらない朝 少しだけあたたかくなる
どうしてだろう あなたのことを探してしまうのは
雨上がりに差し込んだ 光のように舞い降りる

近づく別れの日にも ようやく見つけ出す答え
「言いたいのはサヨナラじゃなくて また逢う日の約束」
静かに でも確かに ただ時は刻み続ける
止めることもできないなら 忘れずにいよう

いつからだろう あなたにすべて重ねてしまうのは
ありふれた毎日が 愛おしく胸に残る

いちばん大切な 笑顔がいまここにあって
歩き出すのを 躊躇うほど やわらかな空気

並べたことばの意味を 繋がり紡ぐ旋律を
伝わるように 届くように 繰り返している ずっと

何度もいくつもの 過ぎ去った季節を想い
見上げた空 透き通る青さ ゆっくり移り変わり
静かに でも確かに また時の流れを告げる
止めることもできないなら 忘れずにいよう
今日も響く声